モデルプログラム　K-２　社会参画とキャリア教育－キャリア形成を支える活動づくり－

ねらい	外国人児童生徒等の社会参画を促進するための力について理解し、それを育てるための活動を考えることを通して、子どもたちが多様性を資源に活躍できるよう支援することの重要性を理解する。
対象	□教師を目指す学生（教員養成課程他）　□日本語教育を学ぶ学生 ☑現職日本語指導担当教員　□現職一般教員　□管理職　□指導主事 ☑日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	□経験なし　☑1 年目　☑2－4 年　☑5 年－9 年　☑10 年以上
高めたい資質・能力	□捉える力（子どもの実態把握）　☑捉える力（社会的背景の理解）　☑育む力（日本語・教科の力の育成）　☑育む力（異文化間能力の涵養）　□つなぐ力（学校作り）　□つなぐ力（地域作り）　☑変える／変わる力（多文化共生社会の実現）　□変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	K　社会参加とキャリア形成
活動形態	□講義型　☑活動型　□フィールド型　□実習
時間	60　分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1.外国人児童生徒等の社会参画を考える。（15 分） ・文化間移動とライフコース（A） ・社会参加とことばの力（K）	１．外国人児童生徒等にとって社会参画を意識した指導が重要であることを理解する。 ・外国人児童生徒等が将来どのように社会参画するか想像する。 ・外国人児童生徒が社会参画するために求められる力について考える。 ◇グループで話し合う時間をとる。 異文化間能力育成の重要性について示唆する。
2.外国人児童生徒等の社会参画を促す取り組みを知る。（15 分） ・地域支援者・異領域との連携（L）	２．社会参画を促す実践例を読んで、取り組みについて具体的に知る。 ◇中学校や高等学校で実施されている、外国人児童生徒等を対象とするキャリア教育の事例や、進路ガイダンスの報告書などを用意する。 例）「定住外国人の子どもの就学支援事業」（虹の架け橋事業）成果報告書）
3.キャリア形成とことばの力を促進する具体的な方法を考える。（20 分） ・キャリア教育とのクロスカリキュラム（I） ・情報リテラシー（K）	３．キャリア形成を促し、ことばの力を高める取り組みについてグループで具体的に考える。 １）指導している外国人児童生徒の、今後の進路やキャリアについて想像しながら話し合う。 ２）将来の職業や進路を決定するために、どんなことができるか（できればよいか）考える。 ◇具体的なアイディアが出ない場合は、例示する。 例）求人票を一緒に読む活動　求人情報から職業の種類を知る活動
4.キャリア教育で重視すべき視点を確認する。（10 分） 市民性教育（K）	４．外国人児童生徒等のキャリア教育で重視すべき視点として、次の点を確認する。 ・自己実現のために必要な情報を収集し未来を描けるように支援 ・社会的存在として、課題解決力を高めるための教育 ・社会の構成員として社会に働きかけることを奨励　　等
備考	・時間がない場合は、活動 2 を中心に 10 分程度で行う。